

令和 6 年度 学 校 評 価 表(中間)																学校名 三原市立深小学校			
a 学校教育目標		夢と志を持ち、共に高め合う児童の育成			b 学校経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】（自校の使命） 自ら考え行動し、未来を切り拓く児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） ふるさとを愛し、活力に満ちた学校												
	評 価 計 画					自己評価					改善方策		1 学校関係者評価						
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	イ	ロ	ハ	コメント				
確かな学力の定着	基礎学力の定着◎		フォローアップの工夫とドリルの徹底による基礎学力の定着 個のつまずきの把握と個に応じた指導	・国語・算数・理科の単元末テストの平均点80点以上 ・児童アンケート：「課題発見・解決力」の項目における肯定的評価の割合	80%	国語 81% 算数 87% 理科 88% 100%		国語 101% 算数 109% 理科 110% 125%	A	単元末テストの平均点は、国語81.0点、算数87.1点、理科88.3点で、どの教科も目標値80%を達成することができた。 しかし、観点別では、国語の「知識・技能」が78.2点で、目標値を下回っていた。特に、漢字を十分に覚えていない児童が多かった。また、算数の「思考・判断・表現」の平均点は85.0点ではあったが、80点以下の学年もあった。問題の意味を正確に把握する力、記述問題で自分の考えを表現するための語彙力や文章力の不足等が原因として考えられる。 児童アンケート「課題発見・解決力」では、児童の肯定的評価は、100%と高く、目標値に達していた。 しかし、単元末テストの結果が伴っていない児童の要因を考えると、個の学力差への対応がまだ不十分であることが課題として挙げられる。	授業改善の手立てとして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、児童が参加・理解・習得・活用するための手立てを工夫する。また、基礎学力の定着に向けて、児童の実態に応じたドリルタイムでの学習内容を精選・工夫する。内容として、漢字テスト、百マス計算、初見の文章問題、音読等を実施し、基礎学力の定着を図る。さらに、読書タイムを充実させ、語彙力や文章力の向上を図る。 また、正確に問題や課題を把握させるために、全教科で文章を読む時は、印をつけさせ、問題の意味を正確に把握して、解決していく力を身に付けることができるようにする。	○			・個の学力差に応じた手立てを工夫されていると思いました。地域公開参観日で算数の授業を参観させていただきましたが、どのクラスも教室内でクロムブックを活用して学習している姿に驚きました。				
	思考力・判断力・表現力の向上		筋道立てて伝え合う活動の充実 ・事柄の順序 ・自分の考えと根拠を明確にした表現 ・比べたり、関連付けたりして考え、伝える	・児童アンケート：「思考力・判断力・表現力」の項目における肯定的評価の割合 ・教職員アンケート：「思考力・判断力・表現力」の項目における肯定的評価の割合	80%	91% 83%		114% 104%	A	「思考力・判断力・表現力」の肯定的評価の割合は、児童アンケートも教職員アンケートも目標値を上回っていた。 しかし、実際には、「自分の思いや考えを理由と共に表現すること」にまだ課題がある。理由をついたり、順序立てたりして、相手に分かりやすく自分の思いや考えを表現する力を伸ばしていく必要がある。	自分の思いや考えを理由と共に表現することができるようにするために、自分の考えと根拠を明確にした表現の場(発表朝会等)を学期に1回以上設定し、相手意識をもって自分の考えを表現できる力を身に付けさせる。 また、授業の中の全体交流で、話型を掲示し、順序の言葉を使ったり、根拠を明確にしたりして、表現力を身に付けることができるようにする。 さらに、R80を確実に実施して、学習の振り返りを行わせ、理解度を評価すると共に、書く力を伸ばし、表現力を身に付けることができるようにする。	○			・単元末テストの平均点は、80点を超えているのは良いことだと思いました。引き続き、得点が低い児童の学力向上についても、取り組んでほしいです。				
	主体的・協働的な学習の推進		学び方の定着と学び合いの充実 目標に沿った課題、まとめ、振り返りの実施 ICT機器の効果的な活用	・Q-Uの学習意欲の前回以上の児童の割合 ・児童アンケート：「主体性」の項目における肯定的評価の割合	80%	62% 94%		77% 117%	B	Q-Uの学習意欲の前回(昨年度)以上の児童の割合は62%で、目標値を下回っていた。学年が上がりが、学習内容が難しくなったことも原因として考えられるが、「わかる」「できる」と感じながら児童が主体的に学習に取り組むことができるように、手立てや支援を工夫する必要がある。 児童アンケート「主体性」は、目標値を上回っていた。しかし、「最後まで粘り強く取り組むこと」が難しい児童もいる。	児童の学習意欲を向上させるために、解決の必要感や生活と結びつきのある課題を工夫したり、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた手立ての工夫をしたりする等、授業改善に継続して取り組み、「わかる」「できる」を感じながら学習することができるようにする。	○			・複式の一人学級で、一人で考える時に思考が止まってしまう姿がありました。一人でも集中して思考できるようにすれば良いなと思いました。				
德育と基礎体力の充実	くらしガイドの徹底		「深の子の一日」をもとに、児童会、委員会活動を中心とした課題発見・目標設定・解決への取組・振り返りによる重点目標(挨拶・返事、靴揃え、だまって掃除、廊下歩行)の徹底	・児童及び教職員アンケートによる肯定的評価の割合	80%	児童 92% 教職員 59%		児童 114% 教職員 74%	B	昨年度より、児童も教職員も肯定的評価の割合が高くなっていた。 「挨拶・返事」は、児童アンケートで93.3%、教職員アンケートで87.5%という結果であり、肯定的評価の目標値を上回っていた。また、「靴揃え」は、児童アンケートも教職員アンケートも肯定的評価の割合が100%であった。児童会や生徒指導に関わる活動を中心とした取組により、児童が意識して行うことができ、目標値を大きく上回る結果につながった。 「だまって掃除」と「廊下歩行」は、児童アンケートで100%と目標値を上回っているが、教職員アンケートでは25%と目標値を大きく下回っていた。この結果から、教職員の実態の捉え方と、児童の捉え方に大きく差があることが分かった。児童会活動やSST朝会等を活用して、学校全体で意識統一を図る必要がある。	学校全体の様子を捉え、児童会を中心に、児童会目標を考えさせる時に具体的な活動を示させたり、児童会や委員会を中心に、特に目標値を下回っていた「だまって掃除」と「廊下歩行」について、点検日設ける等、学校全体で改善していくことができるような取組を実施していく。 また、「深の子の一日」を見直し、児童会目標と照らし合わせて振り返りを行うことで、児童自身に課題意識を持たせ、改善するためにどうしたらよいか考えさせていく。	○			・「自分が住んでいる地域が好き」と肯定的回答をした児童が100%になり、うれしいです。今年度も地域の「サロン深っかふか」に、児童が参加してくれることを望んでいます。				
	自己肯定感の向上		お互いのよさを認め合える活動の推進(児童会活動、学級活動、係活動、縦割り班活動等)	・Q-Uの学級生活満足群の児童の割合 ・児童アンケート：「自分にはよいところがある」の項目における肯定的評価の割合	80%	88% 87%		109% 107%	A	学級生活満足群の児童の割合、児童アンケートの肯定的評価の割合のどちらにおいても目標値を達成することができた。 全児童が、終業式や始業式に、全校の前で、「1学期がんばったこと」や「2学期がんばること」等を発表したり、話すスキル朝会でそれぞれの考えを伝え合ったり、季節の俳句を作ったりする等、自分の思いを表現する機会を多く取り入れた。また、学校行事や児童会活動、縦割り班活動等を通して、6年生をリーダーとして学校全体で協力しながら仲良く活動できたことで、目標値を達成することができたと考える。今後も、自己肯定感を高めるための取組を工夫しながら継続していく。	SST朝会で、全校で学校の課題について話し合ったり、児童会目標と関連付けながらよりよい学校生活にするための活動を考えたりする。 全校児童で、互いに「よいところ見つけ」を行ったり、全校合唱・全校合奏等、学校全体で取り組むことのできる活動を工夫したりすることで、自己肯定感や学校生活に対する満足感を高めるようにする。 また、日々の生活の中で気になる児童については、暮会等において、全教職員で共有し、早期に指導に当たっていく。	○							
	運動の楽しさの実感と体力・運動能力の向上		体育朝会の実施、課題種目の改善運動の実施 振り返りカード・自己目標設定・記録更新への挑戦	・新体力テストの自己記録が昨年度より伸びた児童の割合 ・児童アンケート：「運動が好き」の項目における肯定的評価の割合	80%	89% 100%		111% 125%	A	新体力テストについては、昨年度の記録と比較しながら取り組ませたことで、目標値を達成することができた。「立ち幅跳び」は75%で目標値を下回っていたため、課題種目とした。2回目の測定で、改善できるよう取り組んでいく。 児童アンケート「運動が好き」については、100%と目標値を達成することができた。体育朝会や学級遊び、休憩時間の外遊び等で、友達と一緒に運動する楽しさ等を味わったことにより、目標値を達成することができたと考える。	体育の授業や体育朝会において、楽しみながらできるいろいろな運動遊びを紹介し、体験させることで、運動能力を伸ばす。 体育朝会やクラブ活動等で、一輪車を取り入れ、児童の体幹を鍛えと共に、瞬発力やチャレンジ精神を身に付けさせる。 外遊びの推奨や児童会による集団遊びを計画することで、運動の楽しさを味わわせる。	○							
信頼される学校の構築	地域の教育力の活用		各学年、地域の素材を活用した探究的な学習を実施 地域貢献活動の計画・実施	・児童アンケート：「自分が住んでいる地域が好き」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目における肯定的評価の割合	80%	100% 73%		125% 92%	A	「自分が住んでいる地域が好き」のアンケートでは、100%の児童が肯定的評価であった。生活科や総合的な学習の時間に、地域の方とふれ合いながら学習を進めており、地域のよさを実感する機会が多いので、肯定的割合が高いのではないかとと思われる。 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」のアンケートでは、73.3%の児童が肯定的評価であった。前年度の2月(76.2%)と比べて、3ポイントほど下がっていた。今後、総合的な学習の時間等に、地域の課題に気づき、「地域や社会をよくするために」という視点で学習を進めていく必要がある。	2学期以降、ふれあい参観日、深町の特産物の栽培、サロン深っかふかとの交流等、地域に関わる活動を予定している。引き続き、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域に積極的に関わる児童を育成していきたい。また、児童が多様な人・もの・ことに触れ、地域の良さを感じることができる学習内容はもちろん、地域の課題に気づき、その課題解決をするために何をするべきか考える等、教育内容の充実を図り、児童の主体的な学びを促していく。	○			・小規模校で、大変な運営体制であると思います。先生方の業務改善も図らなければならないし、子ども達が落ち着いて学習に取り組めるようにするためには、それなりの準備が必要です。業務改善と授業準備のどちらも大切なことなので、それぞれを保ちながら取組を進めることはなかなか難しいと思いますが、がんばって欲しいです。				
	保護者や地域からの信頼に応える学校づくり	積極的な情報発信と不祥事ゼロ	学校の様子や教育活動について情報発信 不祥事防止研修の工夫	・学校の様子や学習内容がわかる情報発信 各種便り発行 回数 月1回以上 HP更新 回数 月1回以上 地域への学習内容の発信 各学級1回以上 ・不祥事防止研修の実施率 ・教職員アンケート：「自分も不祥事を起こしうる危機感をもっている」の項目における自己評価の割合	100%	100% 100% 100% 100%		100% 100% 100% 100%	A	学校だより、保健だより、すぐーでの配信等、月1回以上の便りを発行することができた。 また、HPについても、トップページにトピックスを掲載する等、これまでに月1回以上更新することができた。 不祥事防止研修の実施も計画に沿って月1回確実に行うことができおり、全職員が、「自分も起こしうる危機感を持った」「月1回の服務研修で不祥事防止の抑止となっている」と回答している。	学校だより・すぐー・HPを活用して、引き続き、情報発信を積極的に行う。 不祥事防止研修については、年間計画に沿って計画的に進めていく。 危機感を抱いて研修を受けることができるように、実際に起こった事案について研修したり、自校の実態ではどうかと考えたりする等、内容の伝達や資料の読み合わせに終わらないようにしていく。また、ロールプレイやチェックリスト等を取り入れ、自分事として捉えられることができるように研修内容を工夫して継続していく。	○			・複式で行う授業は、準備が大変であろうと思いますが、いろいろな工夫されていると感じました。また、職員の数が少ない中で、ご尽力くださってありがたいです。				
	業務改善の推進		児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	・教職員アンケート：「児童と向き合う時間が確保されていると感じる」の項目における肯定的評価の割合 ・時間外勤務が月4.5時間未満の教職員の割合	80% 100%	57% 93%		71% 93%	B	「深小学校では、業務改善が進んでいると思う」と答えた職員は100%であり、日常的に「退校時刻を意識して、業務を進めている」「優先順位を考えて業務を進めている」という職員も100%であった。 しかし、「子どもと向き合う時間が確保されていると感じている」という職員は、57%であり、時間確保をするための業務改善や職員の意識・工夫が反映しきれていない。今年度は、異動職員が多いため、職員は互いに助け合いながら職務を行っているが、様々な業務や取組を行う際に、多少の手間と時間が積み重なっていったことが、要因と考えられる。	職員の協働や業務改善への意識は高い。現在取組を行っていて、効果的なものは、そのまま継続していく。また、「児童と向き合える時間の確保」につながるような、更なる具体的な案を、準備生委員会を出し合ったり、日頃の会話から拾い上げたりする等して、改善策を随時実施していく。	○							

◎本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価】

- A: 100≦(目標達成)
B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80
D: (できていない)<60

【I:学校関係者評価】

- イ：自己評価は適正である。
ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。